

島根県立 古代出雲歴史博物館 NEWS

2008.APR vol. **5**



CONTENTS

- 2・3** 特集展「初夏三彩」／館長あいさつ／特別寄稿
- 4・5** 特別展へのいざない／秋の企画展だより／古代文化センターだより
- 6・7** 展示室から／学芸員通信／古代出雲歴史博週今昔／前館長あいさつ／ボランティア通信／パスポート
- 8** お知らせ／企画展スケジュール



加茂岩倉遺跡出土銅鐸

国宝になる

国宝とは、

「重要文化財のうち世界文化の見地から
評価の高いもので、たぐいまれな国民の
宝たるもの。」(文化財保護法より)

3つの特集展を同時開催！

絵でみる考古学—早川和子原画展—

国宝指定記念特別陳列
加茂岩倉銅鐸の世界展

石見銀山世界遺産登録1周年記念
石州銀展

平成20年
5月31日(土)～7月6日(日)

※加茂岩倉遺跡出土銅鐸は、平成20年3月21日、国の文化審議会でも国宝に指定することが答申されました。

『まるで特別展のような、とっておきな特集展』

“初夏三彩” ～3つの特集展を同時開催



石見銀山遺跡の世界遺産登録1周年を記念して、完全品として伝わるものが極めて稀な石州銀の個人コレクションなど、銀貨幣33点を一挙に公開。

石見銀山遺跡世界遺産登録1周年記念

石州銀展

渦ゆずりはちょうぎん えびすいちじちょうぎん文の入った議葉丁銀、戎一字丁銀、御取納丁銀といった、現存唯一とされる稀少品が一堂に並びます。この他、江戸時代の統一貨幣である慶長丁銀まめいたぎん・豆板銀や、それ以前のデザインが統一されるまでの、エビスとダイコクをあしらった銀貨幣も合わせて公開します。



国宝指定記念特別陳列

加茂岩倉銅鐸の世界展

国宝に指定されることが決まった加茂岩倉遺跡出土の銅鐸39個すべてを、ふだん公開されることの少ない拓本やX線写真などの関連資料とともに展示します。いつもより銅鐸に一步近づき、いろいろな角度からじっくりとご鑑賞ください。

※常設展示の「青銅器と金色の大刀」の加茂岩倉銅鐸は複製文化財の展示となります



古代出雲歴史博物館展示絵画でおなじみ

絵でみる考古学～早川和子原画展～

教科書や数々の歴史図書でおなじみの、早川和子さん制作の原始・古代を中心とする復原絵画を一堂に集める原画展です。平成19～20年の2年間にわたって全国を巡回しますが、中国・四国地方では当館のみの開催です。復原絵画を通して、遺跡や文化財、そして日本の歴史を視覚的に理解していただくとともに、生き生きとした人物描写で知られる早川作品の魅力をより多くの方々に堪能していただきたいと願っています。

平成20年 **5月31日(土)～7月6日(日)** 古代出雲歴史博物館 特別展示室
※いずれも、常設展チケットのみでご観覧いただけます。



小学校社会科用教科書『新編新しい社会6上』（東京書籍）に掲載されている早川和子さんのイラスト（福岡県・板付遺跡）
※弥生時代のムラの様子がわかりやすく描かれています。

- 早川和子講演会 5月31日(土) 14:00～15:30
- 早川和子イラスト教室 6月21日(土) 14:00～16:00
[定員40名] [参加費300円] [会場] 古代出雲歴史博物館講義室

加茂岩倉遺跡銅鐸の世界展 関連イベント

- 連続講座1「加茂岩倉銅鐸発見の意義」
奈良文化財研究所 難波洋三氏 6/15(日) 13:30～15:00
- 連続講座2「加茂岩倉銅鐸の保存修復」
奈良文化財研究所 肥塚隆保氏 6/22(日) 13:30～15:00
- 遺跡探訪バスツアー「青銅器出土地を訪ねて」(予定)6/8(日)、7/6(日)
特集展の観覧と加茂岩倉遺跡をはじめ青銅器出土地をバスで巡ります。
(バスに当館学芸員が同乗し解説します)

- 石州銀展・展示解説「石州銀のはなし」 7月5日(土)
講義室・展示室
①11:00～12:00 ②14:00～15:00 各30名(事前申込必要)
- 石州銀展ワークショップ 7月5日(土) 13:00～16:00
当館体験工房 先着50名(事前申込不要) 参加費：150円程度

特集展関連講演会の申し込み等について

- ・会場は、すべて古代出雲歴史博物館講義室です。(定員100名)
- ・聴講は無料ですが、事前申し込みが必要です。
- [申込] 電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームにて受付。定員になり次第締め切りとさせていただきます。

『これもご縁と申します』

島根県立古代出雲歴史博物館館長 矢内高太郎



「銅鐸が出土した！」職員の電話があり、実感のないまま、どれどれといった気持ちで現場に向かいました。

現場に立ってみて「これは大変なことになった。」と絶句。斜面にもその下の田んぼにも数多くの銅鐸が無造作にごろごろ…です。記者発表、一般公開、シンポジウム…それからは役場職員一同、戦場のような毎日。

平成8年10月14日、加茂岩倉遺跡で銅鐸が発見されたそのとき、私はご縁があって大原郡加茂町の助役として務めさせていただいていたのです。(現雲南市加茂町)

あれから12年、何度か39個の銅鐸と対面することがありましたが、その一個、一個に懐かしさ、親しみのようなものを感じたものです。その銅鐸はこの3月21日、国宝になることが決まりました。そして、私は4月から島根県立古代出雲歴史博物館に勤務させていただくことになりました。展示ケースの銅鐸を見る度にこれもご縁かなと思ってしまう。博物館には加茂岩倉の銅鐸をはじめ、日本、いや世界に誇れる文化財や研究成果が展示されています。開館以来、多くの方々に支えられ、たくさんのお客さまを迎え、無事1周年を迎えたばかりです。開館2年目に突入し、これからが正念場と緊張の思いです。研究を深め、県民のみなさんの財産として県内外にさらに情報発信していける博物館で有り続けるよう、スタッフ一同がんばりますので皆様の応援をどうかよろしくお願いいたします。

【特別寄稿】

「衝撃の一日」～加茂岩倉遺跡出土銅鐸の国宝指定に寄せて～

学芸部長 松本 岩雄

1996年10月14日、午後1時15分、島根大学の田中義昭教授から「加茂町で大量の銅鐸が出土したらしい」との一報が入った。直後に加茂町教委の吾郷和宏さんから「梱包材料を至急持参してほしい」との要請があり、撮影機材・梱包材料を車に積み込んで現場へ急行。3時10分、現地に到着し、車を降りたところ、畦道に10個あまりの銅鐸が横たえてあり、驚愕してしまった。出土地点はどうも上方の丘陵らしいということで、山の斜面を駆け登ると、重機で掘削された法面に銅鐸が貼り付いた光景が飛び込み、目を横にやるとさらに10個以上の銅鐸が無造作に置かれていた。日本最多の銅鐸出現という目を疑うような光景が眼前に広がっていた。

秋の夕暮れは、つるべ落とし。あと2～3時間もすれば暗闇になってしまう。それまでに①現状の記録をとる、②動かされた銅鐸は梱包して持ち帰る、③原位置にあると判断される銅鐸は養生したうえで不寝番を手配することとし、夜中に明日(15日)の記者発表に備えて資料を準備する手はずにした。ところが、しばらくするとマスコミ関係者が現地へ訪れ、今日中に発表してほしいとの強い要請があった。関係者も状況を把握していない段階であったため躊躇したが、加茂町と県教委で協議した結果、午後6時に町文化センターで発表することになった。現地では、記録作成・梱包作業そして次々とやってくるマスコミ対応と並行して発表資料を作成し、役場へ届けた。梱包した銅鐸を1個ずつ抱きかかえて暗闇の崖面を注意深く下山し、町文化センターへ搬入・公開したのはすでに6時50分を過ぎていた。



緊急会見後の7時30分から町と県の関係者が集まり、今後の対応策について協議。①調査体制を早急に整える、②一般公開は19日、③明日(15日)より階段・プレハブ・トイレ・電気等の整備を行うこととし、9時過ぎに終了した。その後私は古代文化センターに帰り、奈良文化財研究所の写真技師(牛島茂氏)に明日の撮影を要請するとともに残務処理を行い、帰宅したのは午前1時を回っていた。長い衝撃の一日は終わった。

発見から12年 発見直後から12月30日まで現地調査が行われ、その後合計3次にわたる発掘が実施されて埋納状況が詳細に調査された。並行して銅鐸の調査も行われ、発掘調査の成果とともに2002年に報告書が刊行された。出土地は国指定史跡となり(1999年)、加茂町(現雲南市)によって史跡公園として整備されつつある。一方銅鐸は、1999年度から2006年度まで文化庁によって保存修復事業が実施され、2007年3月から古代出雲歴史博物館で公開されている。そうした諸々の環境が整ったのを機にこのたび国宝(世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいない国民の宝たるもの)に答申されることとなった。発見者の適切な判断、そして関係者のたゆまぬ努力と県民の御理解・御支援の賜物である。

「銅鐸はなぜ埋納されたのか」ということは、日本考古学最大の謎といわれている。その謎を解く鍵は現地へ訪れて実際に体感するとともに、実物の銅鐸を観ることにつきる。あなたも足を運んでみてはいかがでしょうか。

世界各地に、信仰者にとって特別な意味がある場所＝聖地が存在します。そしてそこへ参拝・巡礼することは、その人にとって特別な体験となります。一体、聖地とは、そしてそこへの巡礼とはどのような意味があるのでしょうか。ローマ、エルサレムと並ぶキリスト教三大聖地の一つサンチャゴ・デ・コンポステラ、聖母巡礼教会の一つルルド、熊野、伊勢など日本の聖地巡礼を通して、その意味に迫ります。

聖地★巡礼

自分探しの旅へ

会期：平成20年7月26日(土)～平成20年9月15日(月)

観覧料：一般(1,000円) 大学生(500円) 小中高生(300円)



サンチャゴ・デ・コンポステラ大聖堂

サンチャゴ・デ・コンポステラ巡礼

フランスからスペインに跨る巡礼路で世界遺産に登録されており、また熊野古道とも友好姉妹道となっています。この路を50日かけて歩いたフランス人 ミッシェル・ラヴェドリンの姿を追ったドキュメンタリー映像を通して、巡礼の意味を探ります。

サンチャゴ・デ・コンポステラは聖ヤコブを祀る巡礼教会。9世紀初めに聖ヤコブの墓が発見されたことにより教会が建てられ、聖遺物信仰の広がりとともに、十二使徒の墓がある場所として多くの巡礼者を集めています。

聖母出現 ルルドの奇跡

1858年、フランスの小さな町ルルドで、15才の少女ベルナデッタに聖母が出現し、泉の出現などを告げたとされます。泉などを通して病気治癒などの奇跡がおこり、今では年間500万人の巡礼者・観光客を迎える聖地に発展しています。その様子を映像を中心に紹介します。



ルルド



那智参詣曼荼羅(正覚寺蔵)
写真提供：和歌山県立博物館

祈り—日本の聖地・巡礼—

日本では、熊野参詣、西国巡礼、伊勢参宮など様々な巡礼が行われています。それらは、どのような心情から行われたものなのでしょうか。またどのような契機から、巡礼が行われたのでしょうか。

主催：島根県立古代出雲歴史博物館、国立民族学博物館、財団法人千里文化財団

「聖地★巡礼」展 講演会等のスケジュール (講演会会場：いずれも当館講義室)

- 『学芸員珍道中1 サンチャゴ・デ・コンポステラへの道』(品川知彦専門学芸員) 6月29日(日) 13:00～14:30
- 『サンチャゴ・コンポステラへの巡礼』(立命館大学教授 大森康宏氏、彫刻家 池田宗弘氏) 7月26日(土) 13:00～16:30
- 『絵解き—熊野参詣曼荼羅—(仮)』(新宮市教育委員会・山本殖生氏) 8月2日(土) 13:00～15:00
- ナイトシアター『サンジャックへの道』(1500キロ、聖地へ向かう心の旅) 8月2日(土)・3日(日) 19:30～21:30
※当館神話シアター(いずれも定員50名)
- 『学芸員珍道中2 聖母出現地をめぐる』(品川知彦専門学芸員) 8月23日(土) 13:00～15:00



銅造観音菩薩坐像 江津市・福泉寺蔵

『秘仏への旅』

―出雲・石見の観音巡礼―

心の旅・癒しの旅ともいわれる巡礼。近畿圏を中心に三十三の観音霊場をめぐる西国三十三所にならい、近世には出雲・石見でも同様の観音霊場めぐりがおこなわれました。この展覧会では、出雲・石見の仏教美術の名品を多数紹介するとともに、かつてさかんにおこなわれた巡礼の姿に迫ります。普段公開されることのない観音霊場の秘仏を拝観できる貴重な機会にもなります。ぜひお見逃しなく。

会期：平成20年10月4日(土)～11月30日(日)

観覧料：一般（700円）・大学（400円）・小中高（200円）

“出雲街道”をあるく

～『古代出雲の多面的交流の研究』～

テーマ研究「古代出雲の多面的交流の研究」は、古代出雲が他の地域とどのように活発な交流を展開していたか、これを明らかにする目的でスタートしたビッグプロジェクトです。古代出雲は、日本海沿岸の中心に位置し、海を舞台に大陸や九州・北陸地方と密接な関係を結んでいました。そのこと自体はこれまで注目されてきたことですが、今回、我々がフィールドとして重視するのは、中国山地です。そこには出雲街道（出雲往来）が通っていました。この出雲街道を舞台とした山陰地方と瀬戸内海地方、そして近畿地方との交流の実態の解明こそが我々の研究課題なのです。

出雲街道の出発点は兵庫県姫路市、そこから岡山県津山市を經由して、鳥取県日野町根雨に到達。さらに日野川沿いに北上し、日本海に出て米子市から出雲へと入ります。実はこのルート、古代までさかのぼります。そして、そのルートに沿って多くの人々や文物が移動したはずですが、たとえば相撲の元祖、ノミノスクネ、この人物

は出雲国の出身なのですが、現在の兵庫県たつの市で死に、そのお墓を作るために多くの出雲人がやって来たということが『播磨国風土記』に書かれています。

このような伝承の背後にいかなる史実が隠されているのか、興味はつきません。謎解きの第一歩は古代の出雲へのルートを復元すること。そのために我々は出雲街道を徹底的に歩き、時には道なき道に迷い込みながらも、楽しく共同研究に取り組んでいます。その成果は、平成22年度の古代出雲歴史博物館の企画展で発表する予定です。お楽しみに。

(古代文化センター専門研究員 森田 喜久男)



近世の出雲街道を調査する研究員たち(岡山県真庭市)



ひょっとして古代の道？四十曲峠(岡山県新庄村)

《ひとくちメモ》『出雲國神仏霊場めぐり』

公式ホームページ <http://www.shinbutsu.jp/>

神話に彩られ、風土記にも記された数多くの神社や仏閣が、今なお自然とともに、人々のくらしとともにある「出雲の國」。宍道湖と中海をまたぎ 出雲國の由緒ある20社寺を巡る「ご縁の道 心の旅」です。

〈出雲大社―鰐淵寺―畑寺―佐太神社―月照寺―売布神社―華蔵寺―美保神社―大神山神社奥宮―大山寺―清水寺―雲樹寺―平濱八幡宮武内神社―八重垣神社―熊野大社―須我神社―峯寺―須佐神社―長浜神社―日御碕神社〉

EXHIBITION

佐太神社の宝物

— 貴族と武士の装い・檜扇と扇箱 —

佐太神社は松江市鹿島町佐陀宮内に鎮座する、出雲を代表する古社のひとつです。多くの文化財が伝来し、日本の神道工芸を代表する優品がみられることでも知られます。今回はその中から平安時代の檜扇・扇箱と室町時代の甲冑を御覧いただけます。5月19日まで。



重要文化財 彩絵檜扇(佐太神社蔵)

RESEARCH

休館日の博物館 — 博物館にお休みはない?!

専門学芸員 守岡利栄



平安時代の出雲大社模型をはき清める

「今日はお休み（休館日）だに、仕事に出らいかね？」私が古代出雲歴博に勤務していることをご存じのご近所さん（パスポート会員様）が、出勤前の私に、こんなふうにご声を掛けて下さいました。出雲地方のことばで「今日は休館日なのに仕事に出かけるの？」という意味です。休館日ならば博物館の学芸員もお休み、と思われたのでしょう。しかし実は、休館日の学芸員は超多忙、大忙しの1日なのです。

古代出雲歴博は、月に一度だけ、第3火曜日が休館日です。一般のお客様がいらっしやらないこの日には、館のあちらこちらで普段とはちょっと違う学芸員の姿を見ることができます。3月18日の休館日の様子をご紹介します。中央ロビーの字豆柱では、柱の状態に変化がないかどうかを観察するため、大きなケースを開ける者あり、展示室の中では、いにしえの出雲大社巨大神殿の引橋にたまった埃を丁寧にはらう者あり、展示替えのため緊張の面持ちで資料を展示台から下げる者あり。考古収蔵庫では、数日後の国宝答申を知って知らずか、加茂岩倉銅鐸の状態を調査する定期点検（人におきかえると定期健康診断のようなもの）を行う者あり。世界で唯一、常設稼働を行うムービングプロジェクター（神話の映画の上映機器）を備え持つ神話シアターでは、夜を徹して点検を行う者あり…。忙しいのは学芸員だけではありません。休館日は、施設の清掃から設備管理、保守点検、万が一に備えての危機管理訓練など、スタッフ一同、何日も前からこの日のために念入りにスケジュールを調整し、当日はあわただしくあつという間に過ぎていくのです。博物館にお休みはない。博物館で働く私たちスタッフは、順番に休みをとることができます。しかし、開館日には多くのお客様を迎え、月に1度の休館日にも多くの人々が忙しく働くこの古代出雲歴史博物館は、365日休みなく働いている、と言えます。1年に1日くらい、静かにゆっくりと休ませてあげたい、と思う今日この頃です。



銅鐸の調査の様子

勢溜の大鳥居



勢溜の大鳥居は鎌倉時代の大社とその周辺を描いた絵図「出雲大社并神郷図」にも描かれており、古くからお参りする人々の目標になっていたようです。

周辺が広場として整備されたのは寛文の遷宮（1667年）のときで、以来大社の門前広場として賑い、たとえば延享の遷宮（1744年）を宮大工が記録した『出雲大社延享造営傳』には「大鳥居前…檜太鼓に足の踏所を不辯 其賑ひ西國に秀たり」と記されています。勢溜の名は「人の勢が集まり、溜まる」ところから付けられたということです。

(ふるさと案内人 馬庭孝司)

古代出雲歴史博物館の発展を祈る

前館長 金 築 孝



私は、去る3月31日付で島根県を退職し、島根県立古代出雲歴史博物館長としての務めも終わりました。在任期間は2年と、考えてみればごく短いものでありましたが、その間に開館の準備をし、開館し、そして開館からの約1年を手探りしながら過ごしてきました。いろいろな問題やトラブルもありましたが、まずまずの評価をいただくことができたように思います。これは、博物館スタッフの努力はもちろんですが、ボランティアのみなさん方のご尽力、様々なお立場からの心温まる力強いご支援、そして博物館を訪れてくださるみなさん方の有形、無形の励ましや厳しい指摘、そのようなものが非常に大きかったことを今さらながら実感しています。改めて、深くお礼申し上げます。

さて、博物館の事務室スタッフは、私の退職を含め、人事異動でずいぶん人が交代し、開館以前からいる者は少数派になってしまいました。博物館は開館前後の激動期から安定期へと向かっています。新しい時代を迎えつつあると感じていますが、まだまだ課題は残っています。私が後を託す矢内高太郎新館長は、かつて県立美術館の運営に携わったこともあります。この新館長以下、博物館スタッフはこれまでの経験を生かし、よりよい博物館を目指して一生懸命がんばっていくことと思います。どうか皆様方には、その博物館を温かく、あるいは厳しく見守り、これまで以上のご支援をいただければと思います。私は、これからは1博物館ファンの立場に回ります。そして、博物館のいっそうの発展を祈ります。がんばれ、島根県立古代出雲歴史博物館！



【ボランティア通信】

2年目の活動

ボランティアスタッフの会 副会長 安部 賀 就

先日、「入館者数45万人」というニュースは、私たちを大変喜ばせました。

開館2年目を迎えた来館者数の目標は30万人!! 単なるお題目にはいけないと思います。

そこで、私たちボランティアスタッフに何ができるのだろうか。来館者の方々に、「来て、見て、良かった、楽しかった」と喜んでもらうのはもちろん、それに加えて、自分自身も今日が楽しく、充実した1日だったと実感できれば、おのずと30万人達成に繋がるのではないのでしょうか。

考えながら実践し続けるのはもちろん、お客様を笑顔でお迎えし、その笑顔が自分に返って来て自信になる、そんなボランティアスタッフの会を目指して頑張る毎日です。

パスポートで、ミュージアムめぐり

パスポートを提示すると下記の博物館・美術館を、優待割引価格で利用できます。

大原美術館（倉敷）一般ご本人様、団体割引と同様に割引／ひろしま美術館（広島市）ご本人と同伴者2名まで、団体割引／サントリー美術館（東京都）ご本人様、100円引き／足立美術館 一般ご本人様、200円引き／島根県立美術館・島根県立石見美術館・広島県立美術館（広島市）・広島市現代美術館（広島市）・尾道市立美術館・サントリーミュージアム（大阪市）以上団体割引／とっとり花回廊 ご本人様と同伴者4名まで1割引

好評です！古代出雲歴史博パスポート



※新登場！うれしいサービス付きのくブロンズパスポート

古代出雲歴史博物館としまねミュージアム施設55館の観覧優待で、

しまねを、みつけた!

詳しくは、古代出雲歴史博物館までお問い合わせください。

出雲大社「昭和の遷宮」写真展

会期 平成20年4月12日(土)～8月18日(月)

会場 当館中央ロビー（写真は、テーマ別展示室側壁に展示します。）

出雲大社の国宝本殿では、平成20年から25年にかけて、60年に一度の大改修「平成の大遷宮」が行われます。当館では、これに因み、およそ60年前の昭和24年から28年にかけて行われた「昭和の遷宮」に関する記録写真（出雲大社提供）24枚を3期に別けて順次展示します。戦後間もない時期の改修風景や遷宮に込められた人々の信仰の様子、当時の世相など懐かしい写真も多くあります

また、シンボル展示として、本殿天井に描かれている「八雲之図」のうち、最大の雲の図形をおよそ実寸大に引き伸ばし、併せて紹介します。



(写真提供:出雲大社)



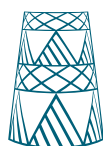
なお、当館では、「昭和の遷宮」が行われた昭和20年代の大社町杵築の様子が分かる写真を探しています。提供できる方はご連絡をお願いいたします。

国宝出雲大社本殿特別拝観日程：4月21日～23日、4月26日～5月6日、5月13日～18日、8月1日～17日。
（詳細は出雲大社のホームページでご確認ください。）

平成20年度企画展スケジュール

会 期	企画展・特別展・特集展	イベントなど
3月7日(金)～5月18日(日)	よみがえる幻の染色—出雲藍板締めの世界とその系譜	体験講座・桂まつりなど
5月31日(土)～7月6日(日) <3特集展を同時開催>	絵でみる考古学～早川和子原画展～ 国宝指定記念特別陳列 加茂岩倉銅鐸の世界展 石見銀山世界遺産登録1周年記念 石州銀展	関連イベントとして、講座・ワークショップ・探訪ツアーなど
7月26日(土)～9月15日(月)	特別展：聖地★巡礼—自分探しの旅へ—	特別講座・巡礼シアター、七夕、体験楽、クイズラリーなど夏休み企画
10月4日(土)～11月30日(日)	企画展 「秘仏への旅—出雲・石見の観音巡礼—」	秋まつり、神在月スタンプラリー、体験探訪企画
12月20日(土)～2月15日(日)	発掘! 斐の河上の3万年—尾原ダム地内の遺跡—(仮)	新年まつり
3月7日(土)～5月17日(日)	企画展「出雲の玉と古代国家の誕生」(仮)	

発行/平成20年4月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo
〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL : <http://www.izm.ed.jp>
E-mail : contact@izm.ed.jp



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん